

こじま信太郎 Hassin!



市政をまっすぐ
あなた
市民に届ける

激論!

2月市会!

財政は? 人口減少は? 観光課題は?!

本気の投資と徹底した改革を



松井市長として初めて本格的に編纂された予算が示されました。「突き抜ける世界都市」を目指すとして掲げられた予算は、「これまでは過小投資であった」や「デフレからインフレへフェイズが変わった」と語られるように、門川市長時代とはある種一線を画すものとみられます。中身として、**第2子以降の保育料無償化**や**山科・東野公園の充実**等、これまで求められてきた予算も盛り込まれていることから評価できます。

他方で、そうした新規充実の取り組みについては、市長からも「清水の舞台から飛び降りる気持ち」と述べられたように、予算が増加するなかで今後も健全な財政運営がなされるよう注視しなければなりません。見直すところは徹底して見直して、今求められる施策に投資する改革が一層求められます。効果が薄い、時代に合わない、市民に知られていない、持続可能性が低い、こういった現行の独自施策に対しては、更なる改革マインドをもって向き合っていきます。

今回、国民健康保険料の引き上げが議題となりました。国保料の負担が大きくなることは対象市民の生活に深刻な影響を与えかねないものであります。しかしながら、今回の件であらためて感じたことは、国保をはじめとした国の社会保障制度の根本的な問題と、これまで毎年64億円という莫大な予算をもって他都市を上回る国保料支援を行いながら、値上がることになって初めて注目されることに対する疑問です。人知れず多くの市民の役に立ってきたことは事実ですが、恩恵や理解のない施策に多額の予算をつぎ込んできたことが、京都市の長年の歳出過多に繋がってきたことも確かです。

また、「攻めた都市経営」を理念に編纂された予算ですが、その投資が十分か、という視点でも質問しました。若い世代の人口流出と自治体間競争が顕在化するなかで、京都市に住むことの魅力を広く伝えることは容易ではありません。望む声が多く聞かれる魅力的な公園整備について、山科は比較的恵まれているものの、全体としては老朽化対策にとどまっています。11月市会で決議が出され、国において急な方針転換がみられた**給食の無償化**についても本気で実施する姿勢が求められます。山科・京都市東部エリアのまちづくりを見据えて、本気の投資を引き続き求めていきます。

市長総括質疑を動画で!



原稿なしの議論を
こちらから



小島 信太郎

プロフィール

- 1986年(昭和61年) 11月10日生まれ
- 衆議院議員 前原誠司 元秘書
- まちづくり委員会 委員
- 家族:妻、長女(小4)、長男(小2)、保護猫達
- 特技:社交ダンス、剣道(2段)、和太鼓
- 地域:山科消防団大宅分団 部長
- 趣味:ソフトバレエ
- 好物:ラーメン、蕎麦、たこ焼き、ゴミ
- その他:京都東山ボーイズ顧問



最大1万円?! 宿泊税の見直し

注目議案の1つに、宿泊税の見直しがありました。5つの料金区分に分けて、200円から最大1万円の宿泊税を徴収する見直しが、来年3月から実施されます。

1万円という額に注目が集まりますが、飲食を除く宿泊料金が10万円という高価格帯の宿泊に対してのみの負担金額です。利用者の能力に応じて負担をお願いし、宿泊税という貴重な財源を確保することは賛成です。

私から懸念として指摘したのは、宿泊税の目的と用途の乖離についてです。宿泊税の見直しに期待されているのは、**オーバーツーリズム**と呼ばれる**観光課題の解決**です。それは、宿泊税の税収を市民にも還元することで、観光振興の恩恵を一般市民にも感じていただくことです。

約126億円と予想される見直し後の税収について、約60億円は市民と観光客の双方に役立つ都市基盤整備に用いとされています。この「双方に」というのが曖昧で、ややもすれば宿泊税財源が便利使いされ、宿泊客や宿泊事業者の不満に繋がらないかが心配されます。

私からは宿泊税の目的に「市民生活との調和」を明文化することや、今後、国の制度化も含めて宿泊税の定率制を提案・要望しました。

今後、基金の設置も念頭に、目的に見合う形で運用をしていくとのことでしたが、宿泊税が真に観光と市民生活の双方に資するものとなるよう注視していきます。

宿泊料金 (1人1泊につき)	現行及び改正後の税率	
	現行	改正後
6,000円未満	200円	200円
6,000円以上 20,000円未満		400円
20,000円以上 50,000円未満	500円	1,000円
50,000円以上 100,000円未満		4,000円
100,000円以上	1,000円	10,000円



発行元・お問合せ先

こじま信太郎事務所

〒607-8142 京都市山科区東野中井ノ上町 7-68
(東野駅徒歩8分)

TEL : 075-582-1115
FAX : 075-582-1116

E-mail : kojima.hassin@gmail.com



京都市会議員こじま信太郎
Instagram

京都・山科の情報発信や
相談窓口として更新しています!





地下鉄

バスの

キャッシュレス前進!



ICカード
QRコード
乗車システム
活用

かねてから機を捉えて提案をし続けてきた、**地下鉄駅のトイレの戦略的リニューアル**や**清掃の徹底**に加えて、**タッチ決済やQRコードを利用したデジタル乗車証の導入方針**が示されました。外国人観光客が多い京都市において、利用客増加や混雑緩和に有効であることはもちろん、企画乗車券を発行しやすい等、市民の利便性向上にも大いに期待出来ます。実際、スルッとKANSAI協議会では、関西一円を周遊できるQRコード型のパスがすでに発売されています。一昨年、視察に訪れた福岡市ではタッチ決済機能を使い、1日の利用上限金額を設定するサービスが実施されており、市民にも好評とのことでした。

これまでのやり取りでは、新たなキャッシュレス乗車システムの必要性は認めながら、導入費用の捻出が難しいとのことでしたが、**宿泊税の活用を予定**することで導入が決断されました。

導入は令和9年を目指すとのことから、今後は**①磁気切符廃止の可否**、**②敬老乗車証のデジタル化との関係**、**③市民優先価格との関わり**、が焦点になると考えています。

とくに①に関しては、改札機の更新修繕や磁気切符そのものにかかるコストが割高であることから、すでに廃止方針を示している交通事業者も出始めています。デジタル化にイニシャルコストをかけるので

あれば、磁気切符廃止によってランニングコストを下げる努力をしなければなりません。

③については、まだまだ分からないところが多くありますが、松井市長の掲げる大目標のひとつで、**地下鉄・市バスの料金を高めに設定した上で、市民に対してのみ割引を実施するという構想**です。答弁から分かっているのは、マイナンバーカードと紐付して市民か否かを区別するシステムを構築するということです。おそらくは群馬県の「GunMaaS」のように交通系ICカードと連動が念頭だと考えられます。

市民優先価格については、オーバーツーリズムと呼ばれる観光課題に対して、市民理解の向上に繋がるという期待がある一方、最も不満が大きいバスの混雑緩和には繋がらないという心配、市民以外で市内で活躍する関係人口への影響や、公共交通機関以外の移動手段にシフトする可能性等々、根本的な課題解消に結びつくのか、詳細な制度設計も含めて疑問が残ります。

日頃から利用する機会も多いことから、交通事業については皆さん思いがあるかと思います。ぜひ、色々な観点からご意見ご質問をいただきますようお願いいたします。



山科 魅力発信 特別編 まちづくりには やっぱり公園がだいじ!

全国の公園で遊具の老朽化が問題になっています。滋賀の大型公園の遊具が利用禁止になったことは京都でも話題になりました。山科では東野公園の遊具が老朽化で撤去され、「残念だ」という声が多く寄せられていました。多方面からの要望が実り、ようやく遊具を含めた公園の充実が予算化されたのは、子を持つ親の1人としても嬉しく思います。

魅力的な公園は定住促進や地域の活性化に大きな効果を持ちます。山科では、六兵衛池公園、中央公園、東野公園でイベントも開催され賑わいをみせています。

東野公園では、古くなったバスケットゴールという課題も残っています。**地域や民間の知恵や力を活かして**、公園を中心に地域を元気にしていくことについて今後も提案を続けていきます。ご意見、ご要望もぜひお寄せください。



「令和のコメ騒動」は止められなかったのか

地方議会は国に対して「意見書」で施策を求めることが出来ます。昨年の5月市会で賛成多数をもって「**コメの供給不足の懸念に対して適切な対応を求める意見書**」が提出されました。周囲のコメに関わる事業者のお声が元になった意見書でした。

あらためて意見書が国で軽視されているのでは、という疑問も生じますが、意見書での提案も空しく、8月には「令和のコメ騒動」と呼ばれる事態が発生し、その後も今年に入るまで有効な対策が取られないまま、コメの価格がぐんぐん上がり、市民生活や事業者にも多大な影響を引き起こし続けています。

意見書が提出された昨年6月の時点で、混乱が十分予想されていたことに鑑みると、**早期かつ積極的な対策が取られなかったことは残念でなりません。**

コメ農家にとって、価格が上がることは待望かもしれません。しかし今般の高騰は、不特定の間事業者の存在や、コメ離れ、外国産米との価格逆転等、望まない事態が多すぎることも事実です。

昨年からの事態を一過性のものと軽視することなく、根本的な農業政策転換も含めて、今後に繋げていただけるよう機を捉えて求めていきます。

meetus 山科-醍醐



元ラクト 健康・文化館に 図書館と遊び場が!?

地域活性化プロジェクトとして取り組まれる「meetus 山科-醍醐」について新たな発表がありました。その中でもとくに注目度が高いのが、**元ラクト健康・文化館の活用方針**です。民間への売却に向けてサウンディング調査が行われていたのですが、方針を一転させて図書館や屋内型の子ども遊び場を内包した市有施設として検討するとされました。

この間、市内でも有数の乗降客数を誇る山科駅直通的施設として、その高いポテンシャルを活かすべく考えられてきました。私も強く思いをもっていた**屋内型の遊び場の設置**については大いに期待しますが、施設の特性を考えると心配な点が少なくありません。

これまで民間活用が難航してきた主な原因は、**施設の改修費用やランニングコストが高く、採算がとれない**というものでした。市有施設として維持するということはその大部分を市で負担するということになり、財政への影響が懸念されます。

施設の特性を捉まえて、効果的な投資であるかどうかについて、期待も込めながら質問していきます。



教育が1丁目1番地!

こじまが政治の道を目指した初志は教育改革です。国政における教育改革に向けた取り組みを応援しています。



全ての子どもに学ぶチャンス!

衆議院議員
まえはら 誠司
YouTubeで
国政報告
配信中